JDBAインフォメーション

協会からのお知らせ

2020年全国大会結果/予定

結　果

第7回全日本女子総合選手権

開催日：2020年12月13日　開催場所：茨城県水戸市「アダストリア みと アリーナ」

シニア女子の部

優　勝：Mito GS girls（関東ブロック・茨城県）
準優勝：HOLICK（東海ブロック・愛知県）
第3位：SP-girls（関東ブロック・埼玉県）
第3位：POWERPUFF L（東海ブロック・愛知県）

D-1Gの部

優　勝：平成BLUEtree（愛知県代表）
準優勝：uniTy（徳島県代表）
第3位：東名パワーパフガールズ（愛知県代表）
第3位：SHIGA FIRE SPIRITS（滋賀県代表）

予　定

第30回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会

開催日：2021年3月28日（日）　開催場所：石川県金沢市「いしかわ総合スポーツセンター」

2021年度大会開催予定

2021年~~8月15日（日）~~　11月27日（土）
第30回全日本ドッジボール選手権全国大会
茨城県水戸市「アダストリア みと アリーナ」

~~2021年9月19日（日）~~　2022年3月26日（土）
2021J.D.B.A.全日本選手権
長野県長野市「ホワイトリング」

2021年11月28日（日）
第8回全日本女子総合選手権
茨城県水戸市「アダストリア みと アリーナ」

2022年3月27日（日）
第31回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会
広島県広島市「広島グリーンアリーナ」

2021年2月レフガード発売開始！

全国大会での会場販売や
今後のホームページでの展開にご期待ください！

JDBAからのお知らせ

2020年度はコロナ禍のため、予定された事業のうちいくつもの大会や普及事業・講習会などが中止または延期となり、皆さまにも活動のめどが立たず苦しい時期があったことと存じます。

このような未曾有の災害級の状況下にあっても、手探りで多くの活動につなげ、女子総合選手権や春小などの全国大会への出場、予選会の開催にご参加いただきましたこと感謝申し上げます。

さて、21年度更新についてのお知らせです。資格更新としては公認審判員・指導員とも、基本的には昨年度と同様の手続きとなります。相違点は下記の通りです。

●価格改定について

2019年10月の消費税増税に伴い、協会販売教材・用具などの価格が変わり、『2019-2020年度版ドッジボール公式ルール&審判テキストブック』の価格が2,037円となりましたが、『2021-2022年度版ドッジボール公式ルール&審判テキストブック』から2,000円（税込み）に改定します。

●公認審判員・指導員・競技者など資格更新について

公認審判員

更新の手続きに変更はありません。今年度は『2021-2022年度版ドッジボール公式ルール&審判テキストブック』の改定年度となるので、更新手続後にワッペンと同封して発送します。

公認A級指導員、公認B級指導員（C級指導員は変更なし）

最新のルール把握の条件として『ルール&テキストブック』を日本協会でご購入いただくことが更新要件ですが、2021年度以降、1,000円の会費追加でルールブック代相当とし、ご入金を確認後、ルールブックを発送します。

※詳しくは「会員各位、各種資格更新手続きに関するお知らせ」の表をご確認ください。

競技者

2020年度は「全日本選手権」としてのシニア選手の全国大会が中止となったため、20年度の競技者資格は個人会費、競技者資格ともに21年度も有効期間を継続し、2年間有効とします（20年度に登録した一般競技者は、21年度更新料のお支払いの必要はありません）。

ルールブック翻訳にご協力を！

国際化（シングルボール・ルール・ドッジボールの世界拡大）に向け、今年はルールの英訳や国際大会への参加・開催企画の本格化を目指す元年となります。そこで、英語や他の言語でルールブックの翻訳に協力いただける方を大募集！　事務局まで、ぜひご連絡ください。

一般財団法人日本ドッジボール協会
https://www.dodgeball.or.jp
〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405
TEL.03-5776-1830　FAX.03-5776-1840

スポーツくじ toto BIG
このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

J.D.B.A. JAPAN DODGE BALL ASSOCIATION
ドッジボールニュース
Vol.11 2021.03

NEXT10～SELECT10

組織力、人材育成、そして明日へ

JDBA 理事長
城門 政文

2020年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、スポーツ界最大のイベント「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催が延期されました。政府による緊急事態宣言が発出され、一時的ですが、社会経済活動など私たちの日常生活が大きく変わった1年でした。JDBAにおいても、3月に予定していた第29回春の全国小学生ドッジボール選手権（広島県広島市）、夏の全国大会（茨城県水戸市）、JDBA全日本選手権（福岡県北九州市）などの大会が中止になりました。協会に長く関わってきましたが、このような状況は初めてです。これまでは全国大会が季節ごとに開催され、日常的にスポーツに関わることが生活習慣であった指導者やアスリートたちにとっても、出口の見えない年でした。幸いにもJDBAでは、コロナ禍の中、感染予防などの対策を徹底し、関係各位の多大なるご理解・ご協力を賜り、12月に茨城県水戸市「アダストリア みと アリーナ」において全日本女子総合選手権を開催。この大会で得た貴重な体験は、これからの「ウィズコロナ」の中で、安心・安全が担保される組織運営に反映されるものと確信しました。

21年4月から始まる「SELECT10（選択の10年）」の基本方針で示したように、JDBAを取り巻く現状は他のスポーツ団体が抱える問題や社会一般的な諸問題とも決して無縁ではなく、財政難・人材難など共通の課題が山積しています。課題解決のために、組織内の関係各位との連携を密にし、協会理念に基づく組織運営を掲げ、NF（国内競技連盟）としての自覚と責任を持ち、ガバナンス強化やコンプライアンス遵守を進め、国内外に責任を持てる競技団体としてドッジボールのさらなる普及発展に向けた施策を展開します。具体的には、①組織体制の強化、および連携促進、②財政基盤の確立・健全化、③関係機関・他団体との連携強化、④専門委員会活動の拡大という4つの「基本施策」を掲げています。1つ1つの課題に真摯に向き合い、さらなる組織力の強化・向上に努めます。

21年もコロナ禍の中、波乱の幕開けとなりました。今、そこにある危機、ピンチを組織人、一人一人の英知を結集して乗り越え、ドッジボールを愛する人たちに希望と勇気を与えられる組織運営を目指して、さらなるリーダーシップを発揮する所存です。関係各位のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

ドッジボール講演会 兼 指導者資格更新講習会を開催

2020年12月12日、「アダストリア みと アリーナ」にて講演会 兼 更新講習会を開催。講演会には、次の3名の講師をお迎えしました。

- **岩政 大樹氏**：サッカー元日本代表、元鹿島アントラーズ選手、上武大学サッカー部アドバイザー
- **岡本 文幸氏**：（株）アントラーズFCマーケティンググループマネージャー、（一社）アントラーズホームタウンDMO事務局長
- **日下部 守昭氏**：東京大学大学院農学生命研究科 特任教授

岩政氏からは「理想の指導者」と題するお話をいただきました。自らもJFA公認指導者S級ライセンスを取得し、今後は指導者として選手の育成に関わっていかれるそうです。

岡本氏は「鹿島アントラーズの取り組み」と題し、クラブ運営や他事業の経営、地域と連携を持った取り組みなど、将来のビジョンについて話されました。

日下部氏からは、「身体を壊させない指導について」と題し、食事や運動、睡眠などが子どもの成長期にどのように関わっているのかなど、具体的にお話ししていただきました。

参加した受講者からは「どの方の講話も非常に勉強になった」といった感想が寄せられています。

なお、20年度JDBA指導者更新講習会はオンデマンドでの受講となりました。現在、21年6月頃にもオンデマンドで受講できるよう調整しています。詳細は後日、ホームページなどでお知らせします。

女子総合選手権の優勝旗を寄贈いただきました！

茨城県水戸市の市議会議員で、水戸市ドッジボール協会会長の袴塚孝雄氏より、全日本女子総合選手権大会の優勝旗2本を寄贈していただきました。これまで優勝旗がなかったのですが、水戸市で開催される第7回大会がきっかけとなり製作の運びとなりました。袴塚会長からは「選手たちの思い出になるように」と、開会式前に贈呈式が行われました。

優勝旗には過去6回までの優勝チーム名も入り、早速、今大会の優勝チームへ贈呈されました。城門JDBA理事長は「優勝旗獲得が新たな目標となれば」と感謝しました。

水戸市ドッジボール協会の袴塚孝雄会長（左）から優勝旗を贈呈される城門JDBA理事長

私たちにできること

2019 年マルチボール日本代表
吉川 辰哉

私は現在、マルチボール(以下、MB)日本代表選手としてドッジボールの普及活動を行っています。今ではMBの魅力にどっぷりはまり、シングルボール(以下、SB)と同じくらいの熱量で活動を続けています。

私がMBの存在は知ったのは、2005年に公開された「ドッジボール」というアメリカ映画でした。内容自体はコメディーで、このドッジボールは何だろうと思っていました。その後、映画のMBが世界共通のドッジボールであり、日本とはルールが全く違い、世界60カ国以上の国が加盟し、W杯まで開催されていることを知り、興味を持ちました。

体験してみたい気持ちと「日本のドッジボールが世界にどこまで通用するのか」というワクワクした思いで日本代表選考に臨みました。選考を受ける過程で、ルールの複雑さと競技の楽しさを体感し、いつの間にか「もっと世界に日本のドッジボールを広めたい」という想いが芽生えました。幸いにも選考に合格し、W杯をかけた香港大会に日本男子代表で出場。結果は第3位で、W杯出場権を得ました。しかし、オーストラリアやマレーシアとは圧倒的な力の差があり、日本の戦略・戦術を持ってしても乗り越えられない大きな壁があると感じ、日本チームをさらに強化し、再び挑戦したい気持ちになりました。

試合を振り返ると、3位を決める香港戦で逆転勝利した、あの瞬間は一生忘れません。みんなで抱き合い、喜び、涙を流し、感動を分かち合いました。ワンチームとして戦えたことは私の人生の誇りとなっています。今後も、SBの選手やドッジボールをまだ知らない子どもたちにMBの楽しさを伝えていきたいです。

世界中でコロナがはやり、W杯は延期となっています。今もドッジボールができず、つらい状況に置かれている方も多くいると思います。「私たちにできること」はコロナ対策をしながらドッジボールができる環境をつくり、普及・発展につなげることです。またみんなと笑ってドッジボールを楽しめるその日まで頑張りましょう。

子ども会で ドッジボール教室を開催

2018 アジアカップ、2019 マルチボール日本代表
樽井 祥一

僕が住んでいる奈良県の地元子ども会から、「コロナ禍で思うように活動できず、思い出づくりができない」「子どもたちの好きなことをさせてあげたい」「学校の体育館でドッジボール教室ができないか」との相談を受けました。幸いコロナが少し落ち着いていた時期で、学校側の許可も降り、十分な感染予防対策をした上で、幼稚園の年長から小学6年生まで21人の参加で開催できました。

女の子が多いこともあり、ドッジボールに不安そうな子たちもいたため、ウォーミングアップはボールを使わず全員参加型のランニング兼ミニゲームを行いました。

ボールを触り始めると、お話より投球練習やキャッチ練習のほうが楽しくなってきた様子。低学年も高学年も関係なく、すぐに正しいフォームでキャッチできるようになり、ボールを怖がることもなくなりました。そこで、ドッジボール日本代表と小学生チーム「あやめ池サンダーバード」対「子ども会チーム」で対決。公式ドッジを体験しながら大いに盛り上がりました。3時間の予定だったのですが、時間がたつのはとても早く、あっという間に終わってしまいました。

コロナ禍で大変な中でも子どもたちが笑顔で終われたこと、楽しい時間を過ごすことができたことは、普及する上で僕にとってもプラスになりました。今後もこの活動を続けたいと思います。そして、合間を見て子どもたちの手指消毒やボールの消毒していただいた保護者の皆さまへ感謝の気持ちでいっぱいです。ご協力ありがとうございました。

コロナ禍におけるドッジボール大会開催について

関東ブロック連絡会 会長、茨城県ドッジボール協会 理事長
青木 剛

茨城県下では、2020年2月23日の大会を最後に、卒業生を送る大会や新年度の大会が開催されない状況でゴールデンウィークを迎えていました。新たな年度になっても体育館などが使用できず、練習する環境が見つけられず、またメンバー募集活動もままならない状況が続き、このままではドッジボールの存続が危ぶまれるという危機感を、私だけでなく認識していた方が多かったのではないかと思います。

一方、緊急事態宣言中であったものの、茨城県内では6月以降、体育館使用制限が解除される見込みという情報もあり、協会として子どもたちにドッジボールの楽しさを再び感じてもらえるよう、大会開催に向けた検討をスタートしました。

検討を進める中で「ぜひ大会を開催してほしい」という意見がありましたが、「時期尚早である」「感染が怖い、不安だ」という意見もありました。どちらの意見も間違いではないと思っており、自分たちが安全だと思える大会運営ができるか否かが大会を開催する・しないの判断になると考え、検討を進めました。

大会開催に向けての検討にあたり、茨城県ドッジボール協会(以下、県協会)では、公益財団法人日本スポーツ協会より発信された「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」をベースに、県協会版「新型コロナウイルス感染症拡大予防マニュアル」(以下、マニュアル)を理事会で何度も議論し、これなら安全に開催できるというマニュアルを制定することができました。

以下に、マニュアルで定めたコロナ感染拡大防止対策の一例を紹介します。

- **入場時:** 入場者の制限、入場者全員のバイタルチェック表提出、入場者全員の検温・アルコール消毒、入場者が分散できるよう開場時刻の前倒し。
- **開会式・閉会式:** 開会式は役員・審判員以外はスタンドで待機、閉会式は入賞チームのみ参加。
- **試合時:** 試合前の全員検温、マスクケース使用必須(ポケットに入れない)、試合待機時までマスク着用、試合に出ないメンバー・役員はマスク着用、トーナメント敗退チームの帰宅推奨。

県協会では、このような対策に加え、大会間隔を当面は2週間空けることとし、大会を続ける場合でも感染拡大の影響が把握できるようにしながら、20年6月21日に茨城県内のスポーツ大会として先陣を切って大会の開催にこぎ着けました。

それ以降も、運営実績などを踏まえてマニュアルを随時改訂し、より安全・安心のレベルを向上し運営しています。

また、20年12月13日には日本ドッジボール協会主導の下、「第7回全日本女子総合選手権」も開催することができ、大会2週間後も感染者の報告はなく、コロナ感染拡大防止に係る運営には県協会での経験も十分生かせたのではないかと思っています。

指導委員会からのお知らせ

JDBA 指導委員長　**岩見 喜市**

1.指導者名称の変更

2021年度から、指導者資格名称が下記のように変更になります。

従来の名称	変更後の名称
準指導員区分Ⅰ	C級指導員(JDBA内のみの有効資格)
準指導員区分Ⅱ	B級指導員(JDBA内のみの有効資格)
JSPOコーチⅠ: 正指導員(JDBA呼称)	JSPOドッジボールコーチⅠ: A級指導員(JDBA呼称)

2.カリキュラムの変更

2019年のJSPOの公認スポーツ指導者制度の改定施行に伴い、JDBAにおいても指導者資格制度発足から8年間の振り返りと検証を行い、資格制度全般の見直しを図りました。指導委員会内にテキスト編成委員会を設置し、本協会関係者や各ブロック指導部長、チーム関係者などの意見を鑑みながら、カリキュラムの内容や系統性、講習会受講時数など検討しました。また、国内競技連盟(NF)加入の各スポーツ競技団体指導者の資格取得カリキュラムを参考に、時代の変化に対応した内容をタイムリーに学べるようなカリキュラムの編成を行い、21年度から新たに始まるC級指導員養成講習会テキスト作成を行いました。

21年度から従来の集合学習①、②を「C級指導員養成講習会」に改め、下記のように実施します。

2020年度まで	2021年度から
集合学習①　8時間 集合学習②　8時間 計16時間	C級指導員養成講習会　8時間 〈内容〉 ・ドッジボールの歴史と協会理念 ・体罰・暴力行為の根絶と指導者の役割 ・年齢による発達の違いと運動と安全管理 ・運動能力を高めるためのトレーニング

21年度は、従来の集合学習③、④のテキストの見直しを行います。

集合学習③を「B級指導員養成講習会①」(講習時間6時間)とし、ドッジボールのルールと審判法を、集合学習④を「B級指導員養成講習会②」(講習時間8時間+実習10時間)とし、スポーツインテグリティーやガバナンス、コンプライアンスについて学ぶとともに、選手の特性に対応した指導法など、指導者として身につけなくてはならない、より専門的な内容を学ぶことのできるテキストを作成する予定です。また、22年1月にB級指導員養成講習会①、②の概要を広報し、22年度から新テキストで実施する予定です。

最後に、ドッジボールが広く認知されるためには、指導者の皆さまをはじめJDBAに関わるすべての方々の努力が必要と考えています。関係者の皆さん、現時点の立場でできること実践しながら、お互いに手を取り合い、未来に向かって進んでいきましょう。

※資格を持って指導する方を「指導員」、指導する方全般を「指導者」と呼んでいます。

未来への構想、新しい取り組み

JDBA 普及委員長　**山田 孝**

2020年は、コロナ感染の影響で普及事業の開催ができていない加盟協会が多々あったことと思います。そのような状況の中、普及委員会として「未来への構想、新しい取り組み」について行動を開始する時期にきています。

「未来への構想」として、ドッジボール普及事業で推奨している幼児対象の「おやこドッジすくうる」の普及はもちろん、中学生や高校生、成人対象の事業構築。ならびに、将来的にはドッジボールの知名度アップ、健康で体力アップ、地域社会への貢献アップの構想があります。

「新しい取り組み」としては、今まではJDBAから事業推進のお願いをしていたのですが、これからは各加盟協会が地域特性を生かした普及事業の取り組みを考えて実行していただき、JDBAはそのサポートをしたいと考えています。例えば、日本代表経験選手と一緒に取り組む普及事業拡大。加盟協会の中で、チーム活動のない地域へのドッジボール普及事業の広報推進。加盟協会内のスポーツ団体と連携しての事業推進。こういった取り組みを明確にすることは、ドッジボールへの関心向上、チーム数減少の歯止めにつながります。

今後は、普及ブロック部長や加盟協会普及委員長の方々と連携し、チーム指導者の方々からご協力をお借りし、取り組み事業の発展に生かすことができればと考えます。関係各位のご理解・ご協力をお願いいたします。

アジアから世界、そして未来へ シングル種目の海外普及、地固めの年に

JDBA 国際委員長　**長谷川 満也**

2020年12月に予定されていたW杯カイロ大会は開催されず、残念ながら国際大会はすべてが止まった状態です。選手たちに明確な目標を示すことができず、申し訳なく思います。そんな最中、われわれが加盟するADF(アジアドッジボール連盟)では、ホームページの開設を準備中です。サイト内には「シングル種目紹介ページ」が設けられる予定で、当協会では紹介ページに掲載する英語版「ルール抜粋版」「海外レギュレーション簡略版」「レフェリー基本動作」などの資料を作成・提供。さらに、20年12月に水戸で開催された全日本女子総合選手権大会を撮影し、ゲームダイジェスト映像を作成し、提供する予定です。これらはADF加盟25カ国はもとより、世界各国へ発信されることとなります。

そして、ADFにはシングル種目委員会(ルール、コーチ、レフェリー委員会)が設立され、本格的にアジア圏内へのシングル種目普及が開始されます。もちろん、各委員会の主要ポジションは当協会が押さえるつもりです。将来、W杯にシングル種目が採用されるよう、新年度はアジアを起点とした地固めに、しっかりと取り組んでいきます。